

Q30b DSSを用いた惑星状星雲の AGB ハローの検出

山口卓也 (和歌山大)、矢動丸泰、小澤友彦 (みさと天文台)

惑星状星雲 (PN) には、主となる星雲の周辺部に、淡く広がる AGB ハローと呼ばれる構造の存在が確認されている。現在ではいくつかの PNe に、同様の構造を持つことが知られている (Corradi et al.2003)。AGB ハローは恒星の終末期に起こる質量放出に起因されるものであり、この解明は PN の形成メカニズムを探る重要な手段となる。我々は Digitized Sky Survey (DSS) を用いて、PNe の AGB ハローの検出を試みた。対象には Strasbourg-ESO Catalogue of Galactic Planetary Nebulae (Acker et al.1992) に挙げられた PNe を用いた。AGB ハローの有無は Acker et al. に掲載された視直径を元として、DSS の画像から測定された PN の視直径と比較することで決定した。この結果、新たに AGB ハローを持つ PN を発見することができた。今回はこの結果を報告するとともに、手段の詳細について議論し、今後の展開について報告する。